

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：令和7年9月16日(火)
(2025年)

地域企業紹介 94

東栄電化工業株式会社**代表取締役社長 山本茂樹****新技術の事業化に挑む、表面処理のスペシャリスト**

光学機器や半導体装置などの部品に意匠性や機能性を付与する表面処理を行う東栄電化工業株式会社の山本茂樹社長を、相模原市中央区小町通の相模原本社工場に訪ねました。

工業製品などの表面には物理的または科学的な影響などに対する抵抗力、いわゆる「耐久性」が求められ、カメラや時計、デザイン商品などは表面の質感・色・仕上げが「所有する喜びや使う楽しさ」に直結する。よく知られている表面処理は防錆や装飾のための塗装加工である。多くの表面処理技術が産業革命以降、量産技術と共に進化を果たしている。表面に別の金属の薄い層を電気的または化学的に被覆するめっき処理もその一つであり、また、電解処理によってアルミ表面に酸化皮膜（アルミニウム酸化物）を形成するアルマイト処理は 1920 年代に日本で発明された技術だ。東栄電化工業はこれらのめっきやアルマイト処理技術で、精密部品や複雑形状部品などの試作から量産を行っている。今や 1000 社を超える企業の「新価値創出における表面処理技術のパートナー」として、光学部品をはじめ、多様な分野で用いられる特殊部品の表面処理で日本のものづくりを支えているのだ。

東栄電化工業は 2025 年 1 月、「低反射アルマイト」の開発で「神奈川県工業技術開発大賞（特に優れていると認められる技術等に対して授与される賞）」を受賞した。それまでアルマイト処理で耐熱性や超硬質、耐摩耗性といった機能を持たせるため、それぞれに多段階の処理工程

を経て狙った仕様や品質を実現させ、経験に裏打ちされた熟練の技術で顧客のニーズに应运えてきた。特に色の再現性が厳しく求められる商品には、同社の強みが発揮されていた。一方で、新しい技術の柱を生み出すべく、そのテーマを模索していた時、とある顧客から「赤外線を吸収する特性」に関する相談を受けた。また、取引が多い光学・精密機器分野において、レンズ筐体やカメラ部品の内部構造で、写真や映像に余計な光が写り込んでしまう現象を解消するという技術課題も顕在化しつつあった。いくつかの従来技術ではそれぞれに欠点があり、それらを乗り越える新しい技術が必要となる。市場を見渡せば車載用センサーや光学検査装置、産業用のレーザー加工機でも低反射が誤検知防止や精度向上、安全性の確保につながることも分かってきた。検討を重ね、「アルマイト処理で低反射特性が出せれば、うちの独自技術となって競争力を強化できる」と、社内の熱量は上昇した。2020 年には東京理科大学との共同研究を開始し、従来の低反射アルマイトに加え、「紫外光～可視光～赤外光」までの広い波長域で光を吸収し、それぞれに特徴の異なる3種類の低反射アルマイトの開発、実用化に成功。現状、低反射表面処理技術の主流はめっきや塗装による処理で、表面に物理的な凹凸をつけて光を吸収させるものだが、表面がもろいため、時間の経過や摩耗、紫外線・熱によってめっき層や塗膜が劣化し、粉塵が発生することがある。低反射アルマイトは表面そのものを改質することで粉塵の発生は劇的に少なくなる。そもそも、複雑な形状であっても部品の内面にも処理が可能であることから、粉塵の発生を抑えた低反射素材として

代表取締役社長：山本茂樹（やまもとしげき）（写真中央）

事務所所在地：神奈川県相模原市中央区小町通 2-5-9
（相模原本社工場）

従業員数：140 人（正社員 80 人、パート社員 60 人）

事業内容：金属表面処理（アルマイト加工、コネクタ端子の金メッキなど）

URL：<https://toeidenka.co.jp/>

展示会などで PR したところ、各方面からの問い合わせが寄せられ、確かな手ごたえが感じられた。新分野でのシェアの獲得とさらなる市場開拓に向け、量産体制を整えるべく、東栄電化工業は動き出した。

東栄電化工業は山本一雄氏（山本茂樹社長の祖父）が個人事業として東京都目黒区で創業したのが始まりである。もともと一雄氏はめっき処理の会社に勤務していたが、その会社が廃業となり、外注先をなくした取引先からの要請に応えたのだ。経理畑での経験が長かった一雄氏は当時、信州大学医学部で学んでいた長男の泰朗氏（茂樹氏の伯父）を呼び寄せ、共に仕事にあたった。医学部中退という苦渋の決断をした泰朗氏は大学の夜間部に通い、応用化学を学びながら家業の仕事と両立させたという。1956 年に株式会社東栄電化工業所（現 東栄電化株式会社）として法人化、そして 1972 年、現在の相模原本社工場の地で、アルマイト処理を全自動で行う設備による量産体制を整えた東栄電化工業株式会社が設立された。1986 年には相模原本社工場内にフープ式金めっき処理装置を導入し、コネクタ端子部品の連続加工を開始、2006 年には岩手県一関市にも工場を開設した。現在では相模原本社工場でアルマイト処理と化成被膜を、一関工場はフープ式金めっき処理、東栄電化目黒工場はアルマイト処理の一部を担っている。茂樹氏は 2004 年、泰朗氏から「明日から社長だ」と言われた。それまで東栄電化工業の専務として経営にあたっていたが、突然の宣言にはさすがに驚

いた。ただ、今となっては一族らしい事業承継だったと振り返る。アルマイト処理やめっき処理には環境対策が求められる昨今、化学薬品や重金属、化石燃料の使用量の低減に積極的に対応する同社。高温多湿になりやすい処理工程だが、相模原本社工場は処理施設の冷却システムや換気・排気システムを導入、作業環境をよりよくすることで、現場スタッフの働きやすい職場づくりは、「社員と共に成長し続ける会社」の基本でもある。

外部環境の変化に適応するため、直近では大手企業の OB を取締役に迎え、また、技術や営業部門でも外部人材を幹部として登用し、立案した組織戦略を実行している。「皆が最大限に能力を発揮できることが大事」と語る茂樹社長の思いは、昔と変わらない実直な社風となって脈々と受け継がれている。深層が隠れた本質であり、表面を“見える部分”と捉えれば哲学的なニュアンスを帯びるが、東栄電化工業にあてはめれば、「内側（深層）にはひたむきな挑戦、外側（表面）に生み出されたのが新しく、独自性のある技術」とすればしっくりとあてはまる。2026 年にグループ 70 周年を迎える同社。100 年企業・1 世紀企業を目指し、表面処理のスペシャリストとして、今、まさに飛躍の一步を踏み出したところだ。

(写真右) 中根 工場長兼製造部 部長

(写真左) 江崎 製造部生産技術課 課長

一社長就任挨拶一

今年 6 月 20 日に開催されました株式会社さがみはら産業創造センター（SIC）の定時株主総会・取締役会におきまして、代表取締役社長に就任いたしました山崎利宏です。SIC には過去に 12 年間ほど社外取締役を務めていた経緯があり、このたびご縁をいただき、再び SIC に戻ってまいりました。地域に育てていただいた私にとって、社長として SIC の発展に力を尽くせることは大きな喜びであり、同時に責任の重さも痛感しております。

私はこれまで、地域企業の経営に携わる中で、多くの挑戦や困難を経験してまいりました。その過程で最も大切にしてきたのは「人材育成」と「組織づくり」です。人が成長し、組織が一丸となることで、初めて企業は持続的な力を発揮できる——その信念のもと、社員一人ひとりの挑戦を支え、風通しの良い職場づくりに取り組んでまいりました。また、相模原商工会議所工業部会長としても、多くの経営者の方々とともに地域産業の発展に取り組み、仲間と知恵を分かち合う大切さを学んでまいりました。

SIC は 1999 年の設立以来、「総合的なインキュベーション活動を通じて地域経済の発展に貢献する」という理念のもと、起業家や入居企業・地域企業の挑戦を支援するために、経営サポート、プロジェクト、人材事業、ラボやオフィスの提供など多様な事業を展開し、新しい産業の創出に取り組んでいます。

現在、国では「スタートアップ育成 5 か年計画」が推進され、スタートアップを生み育てるエコシステムづくりが加速しています。さらに神奈川県や相模原市では、リニア中央新幹線神奈川駅駅（仮称）の設置を契機としたまちづくりが進んでおり、首都圏南西部の拠点都市としての飛躍が大きく期待されています。SIC としても、この流れをしっかりとらえ、起業家や入居企業・地域企業の皆さまとともに未来を切り拓いていきたいと考えております。

「企業は人のためにある」「初心を忘れず挑戦する」——この志を胸に、現場に寄り添い、人を育み、組織を支える視点を大切にしながら、皆さまと共に歩んでまいります。

これからも地域の皆さまと共に、新しい産業を育み、相模原の未来を創造する力となれるよう全力を尽くしてまいります。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

株式会社さがみはら産業創造センター

代表取締役 山崎 利宏



これまで2回にわたり、ウェルビーイング経営とは何か、そしてそれをどう実践していくかをご紹介してきました。最終回となる今回は、その“先”にある、これからの企業経営について考えてみたいと思います。

今、私たちは先の見えにくい時代を生きています。少子高齢化による労働人口の減少、価値観の多様化、テクノロジーの急速な進展…。こうした環境変化のなかで、企業に求められる役割も、そして経営のあり方も、大きく変わってきました。

かつてのように「正解」を模倣していれば成長できた時代は終わり、いまは「自社にとっての意味ある問い」に向き合いながら、“自分たちらしい答え”を探し続ける時代に入っています。そんな時代において、一人ひとりの力が活きる組織づくり=ウェルビーイング経営は、中小企業の持続可能性を高めるための有効なアプローチだといえるでしょう。

ウェルビーイング経営とは、単に“社員にやさしい”会社を目指すものではありません。人の強みを活かし、関係性を育み、組織として自律的に進化していく力を高めるための基盤づくりです。目の前の「働きやすさ」や「福利厚生」を整えることにとどまらず、組織が未来に向かって進むためのエンジンとして、社員の幸せと企業の健全な成長を同時に目指していくのです。

たとえば、事例でご紹介した企業のように、組織の現状を可視化し、経営層が本気で向き合い、社員と共に試行錯誤を繰り返す企業は、たとえ壁にぶつかっても、そこから学び、また次に向かって動き続ける力を持っています。これは、不確実性が高まる現代において、極めて重要な「組織のしなやかさ（レジリエンス）」といえるでしょう。

さらに、ウェルビーイング経営は、社員の幸せだけでなく、顧客や地域社会との関係性をも豊かにする視点を持っています。自社の存在意義を問い直し、「誰の、何の役に立っているのか？」を言葉にすることで、社員が誇りをもち、顧客からも信頼される企業文化が育まれていきます。

つまり、ウェルビーイング経営とは“内向きの人事施策”ではなく、経営全体の質を高める戦略であり、組織の未来を形づくるための土台なのです。

中小企業には、大企業にはない柔軟性とスピード感があります。トップの想いや理念が現場に届きやすく、社員の声を迅速に経営に反映できるという強みもあります。その利点を活かして、一人ひとりが「自分らしさ」を活かしながら働ける組織を目指していく。それこそが、これからの時代の中小企業に求められる経営の姿ではないでしょうか。

これからの時代に必要なのは、「人と組織がともに育つ経営」。

「うちにはまだ早い」そんなふうを感じる方もいらっしゃるかもしれません。でも、ウェルビーイング経営は、難しいことから始めなくていいのです。まずは社員との対話から。まずは、自社の“いま”を見つめることから。一歩踏み出すことで、会社の空気が、少しずつ変わっていくはずですよ。

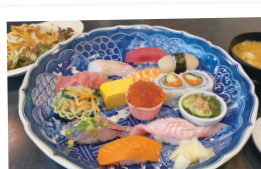


中小企業診断士、ポジティブ心理学コンサルタント、
国家資格キャリアコンサルタント、経営情報修士（MBA）
株式会社B-nO Consulting
代表取締役
漆間 聡子 氏

ポジティブ心理学を経営に取り入れたウェルビーイング経営の実践を通じ、企業の成長と社員の幸福度向上に貢献することを使命として、2019年に株式会社B-nO Consultingを設立。前職では文系SEとして、主にFA（ファクトリーオートメーション）や組込システム開発に従事。ダブルワークでSE時代にキャリアカウンセリングを行い、実績を重ねてきた。ビジネススクールで経営学を学び、「人」を中心に据えた企業経営を提唱している。

GOGHI ときわ（ごちときわ）

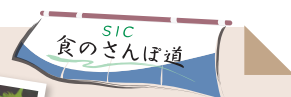
小田急線町田駅北口徒歩3分、1984年創業の「GOCHI ときわ」は、一昔前の町田を思い出させる温かい雰囲気がある今も残る寿司・和食の店です。店に入ると壁に描かれた常連客の昔の町田を懐かしむイラストに和まされます。定番のランチは、豊洲から仕入れた新鮮な魚を使ったにぎり寿司の定食と厚切りの刺身定食、どちらも味噌汁とサラダがついています。日替わり定食は、鮭のハラス焼きとお刺身。すべての料理にお客様の満足を追求した味、量、そして盛り付けの美しさがあり、店主の技が光ります。夜は、刺身、焼魚、煮魚、天ぷら、寿司で美味しいお酒が楽しめます。ぜひ、家族、友人、同僚を誘ってお越しください。



にぎり上ランチ 迫力満点の皿に並ぶ自慢の寿司



ごち定食 活きが良い分厚いお刺身が嬉しい



日替わり定食 本日は人気の鮭のハラス焼き、新鮮なお刺身つき



常連さんのイラスト ほっとする懐かしさを演出

【住 所】東京都町田市森野1-35-10 1F～2F
【営 業 時 間】11:30～14:00 / 17:00～21:00 (L.O.20:00)
【定 休 日】水曜日
【TEL】042-729-3006
【URL】<https://akr0466543937.owst.jp/>
【X】<https://twitter.com/gochitokiwa>
【Instagram】https://www.instagram.com/gochi_tokiwa_sushi

ものづくり企業のための 自動化・ロボット活用講座



本講座では、中小企業の自動化に求められる発想力・実践力・現場力を高め、効果的な改善施策や自動化計画の策定・実施を後押ししていきます。

- 【期 間】 令和7年9月26日(金)～12月16日(火) (全5回)
 【会 場】 サン・エールさがみはら、さがみはら産業創造センター他
 【定 員】 8社 (1社2名まで)
 【参 加 費】 相模原市内企業：税込55,000円／1社
 市外企業：税込82,500円／1社
 【主 催】 相模原市

内容

- 【第1回】9月26日(金) IEをベースとした改善&情報のすすめと改善マネジメント
 【第2回】10月9日(木) 自動化・ロボット導入概論／からくり活用講座
 【第3回】10月23日(木) 工場見学
 【第4回】11月12日(水) ロボット操作体験 (ファナック 協働ロボット CRX)
 【第5回】12月16日(火) 改善・自動化計画発表会

【お申し込み】



【お問い合わせ】 さがみはらロボット導入支援センター
 (事務局：さがみはら産業創造センター 樽川・清水)

詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

令和7年9月時点 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

9月18日(木)・19日(金)	IM養成研修 BI実習受入
9月26日(金)～12月16日(火)	ものづくり企業のための自動化・ロボット活用講座 (全5回)
10月2日(木)・10月23日(木)	サイバーセキュリティ集合研修(全2回)
10月10日(月)	中小企業のためのDX勉強会～生成AIの活用～

入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (令和7年9月16日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空 室 数	賃料/月額 (共益費込・消費税込)
SIC-1 Startup Lab.	1	86,570円
〇スモールオフィスA (23.6㎡)	1	
〇スモールオフィスB (17.3㎡)	2	70,620円

最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

実践形式で学ぶ！これから始める中小企業のための サイバーセキュリティ集合研修

本研修は、サイバー攻撃が巧妙化する中、具体的な取組を始めたい中小企業のサイバーセキュリティ対策を推進することを目的に開催します。

開催概要

- 【日 時】 10月2日(木) 13時30分～16時30分
 (全2回) 10月23日(木) 13時30分～16時30分
 【会 場】 さがみはら産業創造センター SIC-2 会議室A
 (相模原市緑区西橋本5-4-21)
 【定 員】 6社(1社あたり2名まで)
 【参 加 費】 無料
 【対 象】 中小企業 ※相模原市外の企業の方もご参加いただけます
 【内 容】 第1回 10月2日(木)
 診断結果の確認～リスクの見える化
 第2回 10月23日(木)
 リスク対応計画の策定と定着施策
 【講 師】 小川 直樹氏 (一般社団法人首都圏産業活性化協会／
 中小企業診断士、IT コーディネータ)

【お申し込み】



【お問い合わせ】 さがみはら産業創造センター：清水



子どもアントレ協賛
ありがとうございました。



8月5日、8月8日～8月10日に開催した「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」は、48名の小学生が参加し無事終了しました。多くの皆様からご協力、ご協賛いただきましたこと、あらためて御礼申し上げます。

編集後記

アルマイトの確立が約100年前になるのは、原料のアルミニウムが200年前に発見された比較的新しい金属であることも影響しています。東栄電化工業社は、今後も研究開発に力を入れるため、化学を含む陽極酸化処理分野の人材を採用しているそうです。物質の新鮮さと、組織の創造意欲の高さの化学反応によって、独自技術が確立されています。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
 〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
 電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
 E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>